発行年月：平成27年5月　作成：特定非営利活動法人 うらおそい歴史ガイド友の会　発行：浦添市教育委員会文化課

うらおそい歴史新聞

第21号

浦添グスク周辺に残る「戦跡」めぐり

沖縄戦から七〇年、今日ではその戦争の記憶も薄らいではいないでしょうか。

うらおそい歴史ガイド友の会では、戦後７０年の節目として、３月１５日に沖縄戦の激戦地となった浦添グスク周辺の戦跡巡りを実施しました。今回が初めての開催でしたが、市民に呼びかけたところ６０名余りの方々にご参加いただきました。当日は天候にも恵まれ、無事に行われました。

当日は四つの班にわかれ、それぞれの班にガイドがつくかたちで実施しました。日本軍の防衛ラインとなった前田高地をはじめ、住民が避難したクチグヮーガマや食料が備蓄されていた乾パン壕などを回りました。今回は、そのうち幾つかを紹介します。

前田高地は、首里に置かれた第３２軍司令部を守るため日本軍の防衛ラインが張られ、進行してくる米軍を迎え撃った場所です。日本軍と米軍の両方にとって重要な戦いであり、戦死者も多かったそうです。数多くの陣地壕が残されており、これまでに多くの遺骨も発見されています。

クチグヮーガマはもともと住民が避難していた場所でしたが、戦闘が激しくなると日本兵も避難してくるようになったと言われています。ガイドからは、戦時中の証言を交えて解説が行われました。参加者は、当時の人口の約４４．６％が亡くなったといわれる浦添の戦闘について、現地をめぐりながら思いをはせていました。

今回の参加者の中には、沖縄戦を研究しているという２０代の外国籍の方を含む若い世代の方々の参加がありました。ガイド自身も含めて戦争を知らない世代に移り変わりつつあるなか、戦争の記憶を次世代にどう伝えていけばよいのか。いま、わたしたちが「平和ガイド」として語ることの意義は何なのか。日頃ガイドとして活動する私たちも、改めてそういったことを考える良い機会になりました。（仲間孝）

ディーグガマと浦和の塔
ディーグガマは浦添グスクにあるガマで、戦時中には住民や軍人が避難していました。ガマのすぐ上に「浦和の塔」という慰霊碑が建立されています。

南エントランス展示コーナーが新しくなりました！

３月から浦添大公園の南エントランスの展示物が変わっていることにお気づきでしょうか。今回は、新しくなった展示物についてご紹介します。

まず入り口正面壁をみると、カラフルな「浦添グスクと浦添の歴史」の年表が見えてきます。サイズは縦１．４ｍ、横３．２ｍの大きなもので、内容は浦添の歴史を中心に琉球・沖縄の１千年の主な出来事がわかり易くにまとめられています。イラストや写真が多用されているので、一般の方はもちろん、お子さんにもおすすめです。

また、展示に高麗系の「鬼瓦」と「平瓦」が新たに加わりました。ホール全体のレイアウトにもしまりが出てきて、来館者の方々にも好評です。ぜひ足をお運びください（安次富）。

新たに設置された歴史年表パネル
浦添グスクの南エントランスの一角にグスクを紹介する展示コーナーがあります。入場は無料ですのでお気軽に足をお運び下さい。詳しくは下記ようどれ館までお問い合わせ下さい。

浦添グスク・ようどれ館

【開館時間】
午前９時～午後５時

【入館料】
大人（高校生以上）１００円
小人（小中学生）　５０円
※市内小・中学生は無料

【休館日】月曜日・年末年始

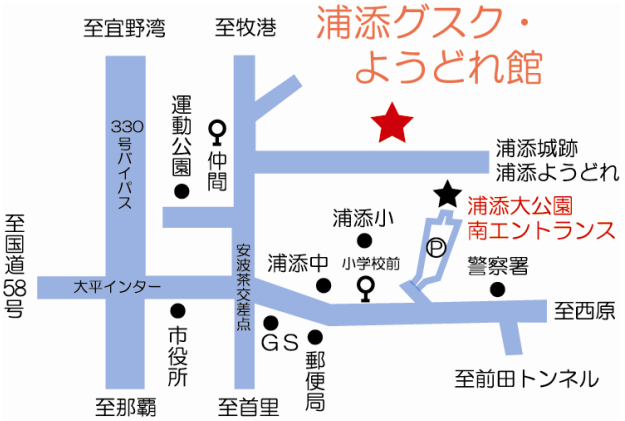
【住所】〒９０１－２１０３
沖縄県浦添市仲間２－５３－１

【電話】０９８－８７４－９３４５

【アクセス】
琉球バス交通　牧港線（５５番）
仲間バス停から徒歩５分

※浦添グスク・ようどれを中心に浦添の史跡・文化財の案内を致します（有料）。時間・コースも相談できます。お気軽にお問い合わせ下さい。

※浦添大公園の南エントランスにグスクや市内文化財を紹介する展示コーナーもありますので、あわせてご覧ください（ガイドの解説あり）。



※仲間バス停から徒歩５分